

インターバンクの声（2015年5月13日）

LIBOR問題やWM/Reuter Fixingでの不正取引などが明らかになって以降、金融機関を中心にお互いの取引や噂に及ぶまで、あらゆる情報交換に対して実際の規定以上に神経質な状態となっている。業務上知り得た情報を社外に漏らしてはいけないと言うのは、別に今も昔も同じで規則以前の常識だと思うが、嘗ては普通にやり取り出来た情報、それが決して直接収益に繋がるはずのない内容にまで及んで自粛するようになってしまった。自己資金の運用を手掛ける金融機関であれば諦めも付くが、顧客からの資金を運用する側の人たちにとっては、この環境下での情報収集とその取捨選択には苦労しているはずだ。そのため以前にも増して、メディアによる市場情報、情報端末、金融機関のアナリスト情報などへの依存度が高まっているが、情報交換の自粛に伴って、どうもこうした情報、取り分け金融機関の一部のアナリスト情報に無用に相場を煽るような内容を記す人が目立っている。細かい情報交換が出来なくなっていることを良いことに、かつてならば「この情報はおかしい」と判断できたはずの情報まで、実しやかな内容として伝わってしまう。いつの時代でも真面目に事実だけを書き記してくれるアナリストの方々が大多数だが、こうした目立ちたがりやで不勉強なアナリストの人たちには違う世界でやって頂きたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。